

第 1 回介護人材確保地域戦略会議開催要項

1. 会議の目的

(介護人材を取り巻く状況)

- 今後、高齢者人口の増加が見込まれており、いわゆる団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には最大で約 250 万人の介護人材が必要と推計されています。また、認知症高齢者や医療ニーズの高い重度要介護者の増加など、介護ニーズの高度化・複雑化が見込まれる中、地域包括ケアシステムの構築が進められており、量だけでなく質の高い介護人材を継続的・安定的に確保することが、必要不可欠です。
- こうした介護人材の量的・質的確保のためには、少子化等に伴う労働力人口の減少や、経済状況の好転等による他業種への人材流出等、中長期的なマクロの労働市場の動向における構造上の課題に対応する必要があります。
- さらに、介護職についての現状を顧みると、国民から「やり甲斐のある仕事」といった肯定的なイメージも持たれている一方、「きつい」「給与水準が低い」「将来に不安がある」等の、介護職の一部分を必要以上に強調したマイナスイメージも根強く、人材参入の阻害要因となっていると考えられるほか、各方面より、キャリアパスの枠組みが不十分、他産業と比較して介護人材の勤続年数は短く賃金水準も低い、一部の介護事業所においては全産業平均と比較して離職率が著しく高い等の課題も指摘されているところです。

(これまでの取組)

- こうした課題を踏まえ、都道府県の皆様のお力添えをいただきながら、介護報酬改定等における処遇改善のための取組のほか、次に掲げる「三本柱」の対策を総合的かつ一体的に進めてきたところです。
 - (1) 多様な人材の「参入促進」
 - ・ 小中学生や若年層など、将来の介護の担い手となる者を含めた、多様な世代に対する介護体験の機会の提供などによる介護のイメージアップ対策
 - ・ 介護職の中核的な役割を担うことが期待される介護福祉士のうち、現在、介護職として就業していない、いわゆる潜在的介護福祉士の再就業のための研修
 - ・ 若年層、主婦層、高齢者層等、個々の働き手のニーズや状況に合わせた、きめ細やかなマッチングの強化
 - (2) 介護従事者の「資質の向上」
 - ・ 研修体系の一元化によるキャリアパスの確立
 - ・ 現任介護従事者の資質向上のための継続的な研修の支援
 - (3) 介護職員の処遇や雇用管理の改善など「環境改善」
 - ・ 介護事業者の人材マネジメント能力の向上
 - ・ 介護職員の身体的負担軽減のための支援

(期待される都道府県の役割)

- 今後、2025年に向けて、さらなる介護人材の確保を進めるためには、これまでの取組に係る有効性の検証を行い、より効果的な対策やこれまでにない発想による新たな対策を検討することが必要と考えられます。また、厚生労働省においても、介護人材確保方策全般について、早急に一定の方向性を示すため、「福祉人材確保対策検討会」において、幅広い観点からの検討を開始したところです。
- 介護人材の確保対策については、地域ごとに、高齢化の進展の状況や、労働市場・人口構造・経済の動向等も異なることから、各都道府県の皆様が、介護従事者の需給状況を的確に把握し、地域の介護事業者のみならず、教育機関や労働関係機関等との緊密な連携を図りながら、地域の実情に応じた対策を、これまで以上に「主体的」かつ「計画的」に進めていただくことが期待されています。
- また、現在、国会で審議されている「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案」においても、都道府県が作成する計画に位置付けられた「介護従事者の確保に関する事業」の実施のため、消費税財源を活用し設置された基金を活用することが位置付けられており、都道府県に求められる役割への期待感は、より一層高まっていると考えられます。

(会議の開催趣旨)

- こうした現状を踏まえ、今後の都道府県における介護人材確保対策を強力に推進するため、各都道府県の先進的な取組の紹介、有識者を交えた講演、各都道府県の担当者間におけるノウハウの共有や発展的な対策の構築に向けたグループディスカッションを行う「介護人材確保地域戦略会議」を開催することといたしました。
- 厚生労働省としては、この会議を国と都道府県がこれまで以上に一丸となり、介護人材確保に取り組んでいくための契機としたいと考えています。各都道府県においては、業務ご多忙とは存じ上げますが、地域住民の暮らしを支えるため、重要かつ喫緊の課題であることをご理解いただき、本会議における議論等の際に、主体的にご参加いただける方を推薦いただきたいと思います。
- この会議は、新たな取組であり、地域活動の実践者や介護人材確保対策に精通した有識者を招き、都道府県の皆様方の有益な情報収集の場となるよう、また、グループディスカッション等の取組が、皆様方のネットワークの構築にも役立つものとなるよう、ボリュームのあるプログラム(案)とさせていただきます。
- この会議が、介護人材確保の最前線に立たれる皆様方の、今後の取組の一助となれば、と考えておりますので、是非とも積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

2. 会場・日時等

○ 会場：三田共用会議所講堂（東京都港区三田 2-1-8）

（注）会場へのアクセスについては、「3. 会場案内図」を参照されたい。

○ 日時：平成 26 年 6 月 17 日（火） 9:30～16:40

○ プログラム（案）

※ 近隣の迷惑となりますので開場時刻以降に到着されるよう願います。

	プログラム案	説明者等
9:10～	開場	
9:30～9:40	開会挨拶	古都大臣官房審議官
9:40～10:00	（行政説明） 「平成 25 年度基金事業実績等について」	関口福祉人材確保対策室長補佐
10:00～10:45	（講演・事例紹介） 「子ども・若者の参入促進について」 ① 土曜日の教育活動の推進について（15 分） ② 介護に対する若者に向けたアプローチ（30 分）	①文部科学省担当 ②岡 氏
10:45～11:45	（事例発表） 「各都道府県における独自性の高い取組について①」 ～アイデアの発現から実施まで～	埼玉県・静岡県 京都府・岡山県
11:45～12:45	休憩	
12:45～14:00	（ミニ・シンポジウム） 「各都道府県における独自性の高い取組について②」 ～各地域で活用する際の課題とポイント～	埼玉県・静岡県 京都府・岡山県 岡 氏・門野氏 山田氏ほか
14:10～16:20	（グループディスカッション） 「介護人材確保対策の現状と未来志向の対策について」 ① グループディスカッション（90 分） ② グループごとの発表（40 分）	47 都道府県 岡 氏・門野氏 山田氏ほか
16:20～16:30	グループディスカッションの講評	岡 氏・門野氏 山田氏ほか
16:30～16:40	閉会挨拶	武内福祉人材確保対策室長

（参考）当日参加（予定）の有識者等（五十音順）

岡 勇樹 氏 特定非営利活動法人 U b d o b e（ウブドベ）代表理事

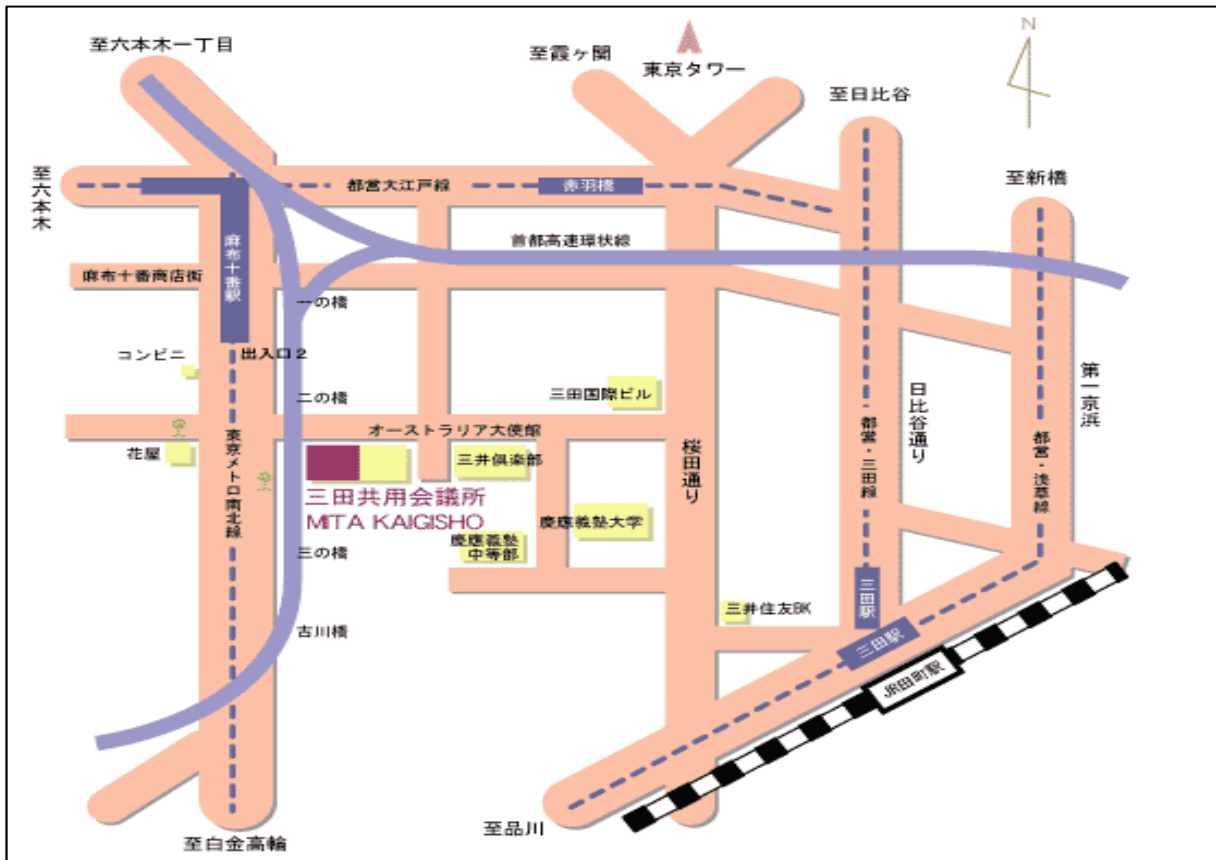
門野 友彦 氏 株式会社リクルートキャリア HELP MAN! ●JAPAN 担当

山田 尋志 氏 特定非営利活動法人 介護人材キャリア開発機構理事長

※ ほかに若干名を予定。文部科学省担当者については、現在調整中。

3. 会場へのアクセス

○ 会場案内図



東京メトロ南北線 麻布十番駅下車（2番出口） 徒歩5分
都営地下鉄大江戸線 麻布十番駅下車（2番出口） 徒歩9分

【お問い合わせ先】

厚生労働省社会援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室（金子、若井、井上）
TEL 03-3595-2617 FAX 03-3591-9898